



古いふすまの貼り替えから  
新品製造までふすまひと筋。

西村襖



学校を卒業して地元の建具屋に弟子入りした西村社長。5年間修行し、実家に戻って父の襖製造を手伝い始めました。以来、40余年、ふすまひと筋で身を立てています。同社はこれまで公団や官舎のふすまをつくってきましたが、この数年は寺院や旅館のふすま張り替えの依頼が増えています。



## 西村襖

所在地／〒831-0008

福岡県大川市鐘ヶ江433-4

代表者／西村 伸吾

TEL0944-87-3338

FAX0944-87-3408

[E-mail] fusuma.nishimura@jupiter.ocn.ne.jp

創業／昭和20(1945)年

従業員／2名

営業時間／8:00～17:00

定休日／土曜、日曜



### TOP VOICE

古い襖を張り替える時、下紙には昔の帳簿や土地台帳が使われていることもあり、中には安政3年の文字もあってとても興味深いです。先人たちがどのようにふすまをつくったのか、勉強になります。

寺院は数十年ごとにふすまを張り替えるそうですが、今はそれができる業者が減っており、同社の出番となるわけです。張り替えは、寺院から古いふすまを引き取り、紙を一枚一枚剥いていきます。ふすまは糊で何重にも紙が貼られており、丈夫な紙のため丁寧にすれば、破れることなく綺麗に剥がせるといいます。新しいふすまづくりは30年以上のキャリアを持つ2人の職人に任せ、社長は古いふすまの張り替えが中心。古いふすまを介して、先人の職人と会話をしている社長です。